

フィリピン・レイテ島訪問

米軍が日本兵をここに埋めた —タクロバン市パロ庁舎横—



題字 津留崎尚
 戦没者を慰霊し 平和を守る会発行
 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町 大字江口7561
 塩川総合企画㈱内 発行責任者 塩川正隆
 電話 0942-89-5135 F A X 89-9281
 e-mail:senbo-peace@senbosusya.com
 http://www.senbosusya.com

2008年7月28日より8月3日まで、戦没者の発掘調査並びに日比合同慰霊式典参加のため、フィリピン・レイテ島を訪問した。
 参加者は、当会のメンバー4人だ。
 レイテ島は、第二次世界大戦で旧日本軍は8万人が戦死し、厚生労働省の発表では、未だに6万人余の方々が未収容の島だ。
 福岡空港からフィリピン航空でマニラ経由タクロバン空港まで搭乗時間約5時間で到着した。

リモン峠第一師団の碑
 台風で崩壊 (写真①)

第14回日比合同
 慰霊式典 (写真②)

バリテイ小学校に
 学用品寄贈 (写真③)

300人に学用品を寄贈
 した。
 これは、日比友好親善
 のため毎年当会が行って
 いるもの。

台風で小学校校舎が
 崩壊 (写真④)

カンギポット山に10年
 ぶりの調査 (写真⑤)

タクロバン市パロ庁舎
 横の空き地に米軍が旧
 日本軍人の遺体を埋め
 た。 (写真⑥)

東ヒサヤ医療センター
 の支援を (写真⑦)



日本兵が埋められているパロ庁舎横の空き地

7月29日午前8時、タクロバンから約120キロ離れた日比合同慰霊碑とバリテイ小学校のある、町長はじめ、ロサール小学校校長や関係者約100人が参加し第14回日比合同慰霊式典を行った。途中、米軍との戦闘で旧日本軍の第一師団が壊滅的な打撃を受け、多くの戦死者を出した、リモン峠の第一師団の碑を訪れ、参拝したが、碑は、今年6月の台風で破壊し無残な姿を晒していた。

7月30日午前10時より、ピアバ・バリテイの日比合同慰霊碑で、バサナ校長はじめ、ロサール小学校校長や関係者約100人が参加し第14回日比合同慰霊式典を行った。式典にはバリテイ小学校の生徒も参加し、「さくら・さくら」など日本の歌と踊りなどを披露してくれた。

式典終了後、バリテイ小学校を訪問し小学生約300人に学用品を寄贈した。これは、日比友好親善のため毎年当会が行っているもの。

同校は、第1回式典以来、日比合同式典を主催して頂いており、今回も同校の小学生が日本の歌と遊技を披露してくれた。当会も、2005年台風被害により、崩壊した小学校の3教室を寄贈している。

今回の目的の一つは、レイテ戦における、旧日本軍終焉の地カンギポット山周辺の調査で、10年ぶりに山に登った。校長の話では、同校は今年6月の台風で、当会が寄贈した3教室は無事だったが、保健室と調理実習室が完全に崩壊し、生徒全員の教科書は水つかり、使用不能となり、



②慰霊式典でダンスを披露する生徒達



①台風で崩壊したリモン峠第一師団の碑



③バリテイ小学校に学用品を寄贈



④台風で崩壊したままの調理実習室
左は当会が寄贈した教室



⑤カンギポット山 日本軍終焉の地

今回の目的の一つは、レイテ戦における、旧日本軍終焉の地カンギポット山周辺の調査で、10年ぶりに山に登った。校長の話では、同校は今年6月の台風で、当会が寄贈した3教室は無事だったが、保健室と調理実習室が完全に崩壊し、生徒全員の教科書は水つかり、使用不能となり、



⑦マットレスも無いベッドで寝かされている入院患者

7月31日タクロバン市パロ町の現地開き取り調査を行った。パロ町は1944年10月20日マッカーサー率いるアメリカ軍が上陸した地点で、同町にある十字架山周辺は、旧日本軍33連隊が同島の守備軍として配属されていたが、わずか数日で全滅した場所だ。

米軍の旧日本軍死体処理の実態について、有力な証言を得た。サルシダさんは、当時13歳で米軍がパロに上陸した当時同町にいて、戦争を体験した。一時疎開していたが、戦闘は2・3日で集結したので、帰宅し米軍の旧日本軍死体者の処理を見ていた。米軍は、十字架山で



⑥証言者サルシダさん

戦った、旧日本軍33連隊の死体10体をブルドーザーで集め、トラックに乗せて川向の現パロ庁舎横の空き地に運び道路横に深さ2メートル幅3メートル長さ30メートルに埋めていた。その後、フィリピン政府や日本政府が発掘したという記憶はない。当会メンバーは、現地に詳しいガイドに依頼しパロ町長に発掘許可を求めるとともに日本に持ち帰り、日本政府の意見も聞き早急に対応することにした。

「現地聞き取り調査で判明」
 7月31日タクロバン市パロ町の現地開き取り調査を行った。パロ町は1944年10月20日マッカーサー率いるアメリカ軍が上陸した地点で、同町にある十字架山周辺は、旧日本軍33連隊が同島の守備軍として配属されていたが、わずか数日で全滅した場所だ。
 米軍の旧日本軍死体処理の実態について、有力な証言を得た。サルシダさんは、当時13歳で米軍がパロに上陸した当時同町にいて、戦争を体験した。一時疎開していたが、戦闘は2・3日で集結したので、帰宅し米軍の旧日本軍死体者の処理を見ていた。米軍は、十字架山で
 ハリウッド映画のトッブスターであり、また監督としても著名なクリント・イーストウッドが、戦時中の硫黄島を題材に日米双方の視点から若者たちの生きざまを描いた作品が、「硫黄島からの手紙」と「父親たちの星条旗」である。
 硫黄島は、東京から約1,200キロメートル、ちょうど東京とサイパン島の中間に位置する周囲を断崖に囲まれた小さな島であり、第二次世界大戦中に本土決戦の前哨戦として日本の領土で初めて戦争がおこなわれた場所である。1945年2月16日に始まった硫黄島の攻防戦は、約一カ月の戦闘の末、日本軍はほぼ全員が玉砕し、戦死者21,800名、アメリカ軍も死者25,000名を出している。
 「父親たちの星条旗」は、硫黄島に星条旗を掲げる6名の兵士を捉えた一枚の写真を通じて展開される英雄と呼ばれた3名の掃蕩兵の苦悩と人生を描いた作品である。政府が国民の戦意高揚、戦費調達を図るために意図的に創り出す英雄伝説と、それに翻弄される掃蕩兵の心理状態が実にうまく描かれている。これまでの戦争映画のように、どちらかが善で、どちらかが悪(この場合、日本軍が悪)というような印象も受けず、観る側には戦場の悲惨さや残酷さが直球となって襲ってくる。「ショービジネス」でも「んだ」という戦費調達イベントで政府高官が言い放つセリフは、いつの時代も戦争は国の都合によっておこなわれ、それにより何万もの尊い命が粗末に扱われていることを象徴しているように思える。また、これらには国境がないことも...
 最近、恋愛やアクション映画に釘付けの方々に是非ご観になって頂きたいと思う。そして戦争という行為によって失われるものが何かを改めて感じてほしい。まだご観になっていない方、必見です。(H.T)

戦没者收容のため 沖縄県での新たな試みについて

海中調査開始

当会理事高田(沖縄戦
当事電信兵)によると、
「摩文仁の海岸は無数の
死体であふれかえり、波
打ち際や海上にも死体が
浮かんでいた。」という証
言や、地元ダイバーの海
中で遺体と遭遇した証言
また現在大度海岸などの
岩場で遺体の一部が発見
されるなどしている。

(写真①)大度海岸で発見
した遺体の一部・腸骨

発見された遺体は、人が
入れないような険しい場
所ではなく、気軽に人が
歩けるような場所で見
られることから、海中か
ら波により運ばれてくる
のではないかと考えるこ
とが出来る。

このようなことから、
周辺海域の海中にも戦没
者の遺体が現在も残され
ているのではないかと考
え、地元のダイバーの協
力のもと摩文仁(写真②)
摩文仁海岸を海側から撮
影)から大度海岸まで海

中調査を行いました。

3名のダイバーにより
さんご礁内を調査しまし
た。(写真③)調査に参加
していただいたダイ
バー)今回は海中での遺
体の発見はありませんで
した。今後、調査範囲を
東西に広げ沖縄本島南側
の海岸線を調査してい
きます。

新たな埋没壕の 発掘の試み について

2007年5月以来、
沖縄県与那原町板良敷に
ある旧日本軍海上挺進隊
第二十七戦隊第三中隊第
一小隊(球19766部
隊)の壕についての調査
を行っています。

海上挺身隊は海上の
特攻隊といわれベニヤ板
にて作られたボートに自
動車のエンジンをつけた
モーターボートに250
kg爆雷をつけ、夜間に敵
艦船に肉薄攻撃(特攻)
を行う部隊で太平洋戦争



①大度海岸で発見した遺体の一部・腸骨



②摩文仁海岸を海側から撮影



③調査に参加していただいたダイバー

末期、制空権を奪われた
日本軍が編成した秘匿部
隊です。この壕は昭和20
年4月上旬に空爆を受け
中におられた7名の日本
兵が生き埋めとなった壕
とのこと。この壕が
あったと思われる場所に
は慰霊塔が建てられ、若
桜の塔(写真④)と名づ
けられています。

この壕はこの部隊の生
存者の方(写真⑤)現在関
東地区在住)からの情報
によると爆撃を受けた直
後、壕入り口は完全に埋
没していたが入り口側よ
り竹竿を挿してみると奥
は空洞が保たれている。
そのとき壕内部から生存
者がいるような反応は無
く敵軍の攻撃も激しく
たため穴を掘り救出作業

が出来なかったとのこと
でした。
当会が以前から行って
いる電気探査(写真⑥)地
層検査)を2回行いまし
たが、小さな電氣的反応
は存在しましたが、地中
に残存する明らかな空洞
の発見には至りません
でした。

また測定線直下の地層
情報しか得られないため
壕の位置が測定線から外
れている。この2点が考
えられます。1点目を確
認するため不発弾探索に
行われる磁気探査を、電
気探査を行った測定線に
沿って行いました。この
磁気探査は地中の金属を
探査する手法(沖縄県で
は比較的ポピュラーな探
査)この探査は地中約10
メートルまで探査でき、
各種文献によると投下さ
れた爆弾や艦砲射撃され
た爆雷は故意に埋めない



④若桜の塔



⑤左の人物

限り10メートル以上は埋
没しないといわれている
ため不発弾の存在は否定
されました。
このことにより正確な
地層把握のためボーリン
グ調査(写真⑦)を電気
探査で小さな反応があっ
た場所に行いました。
その結果明らかな地層の
変化は確認されません
でした。

また当時を知る方々の
証言を元にある程度の場
所の特定は出来ましたが
、この場所の地権者の
了解、また不発弾の危険
がないと確認できました
ので、重機を使用しこの
地帯の発掘(写真⑧)を
行いましたが、埋没壕の
発掘には至りません
でした。今回の壕については
引き続き発掘作業を行っ

ていきます。今回発掘に
至るプロセスは現在埋没
して不明になっている壕
の調査にかかっています。
現在首里城公園の地下にも旧
日本軍32軍の司令部壕の
跡が残されているそうで
すが、正確な全体像は未
だ把握できていないよう
です。今後このような地
点が沖縄県には多数存在
しているため、発掘を行
い地中におられる戦没者
を收容し一刻も早くご家
族の下へお返ししたいと
考えます。



⑧重機による調査



⑥電気探査風景



⑦ボーリング調査風景



子や孫が平和で暮らせる社会を求めて

● 神崎市仁比山小学校で平和講演会



講演を聴く生徒達

(政府)がこの事実を捻じ曲げ、悲惨な戦争の事実とその責任をうやむやにしようとしていることです。また日本はこのような悲惨な戦争を体験したにも関わらず、憲法9条(戦争の放棄)を改悪する

戦争は、一部の欲張り(軍需産業など)と無関心な国民がいると出来ま

6月13日(金)、石橋文化センター共同ホールにてシンポジウム「志布志事件の真実」を開催しました。

権力により絵が描かれ、それに無実の人があてはめられてしまったことに

違法な取調べの実態が次々と明らかになりました。

に、議論が活発になっていく。取調べの可視化について

当会主催、連合福岡北筑後地域協議会、連合福岡南筑後地域協議会並び

らイベントを見聞きした。そして、感じた。「こんな国会議員ばかりなら

われている。他の原因がないものか調べてみた。

を得ない状況の中で、純粋に国のために戦った。私は、若者の人口比率

● シンポジウム「志布志事件の真実」を開催

● 「子や孫が平和に暮らせる社会を求めて」若者と国会議員が語る会を開催

2008年(平成20年)6月15日、佐賀県神崎市仁比山小学校で平和講演会を行いました。

「戦争が良いか平和が良いか」と言えば誰でも平和が良いと言いますが、戦争は軍需産業など、戦

まず、シンポジウムに先立ち、日本の刑事裁判制度の問題点を描いた映画「それでもボクはやってない」を上映しました。

最後に、懐氏の「たとえ無罪となっても、元被告人という言葉はずっと

会には、まず当会が毎年行っている遺体収容の旅を取り上げた番組「私たちが出会った戦争、沖縄

「命令」が下された。原稿を書くにあたって、私が感じた「こんな国会議員ばかりなら

「戦争が良いか平和が良いか」と言えば誰でも平和が良いと言いますが、戦争は軍需産業など、戦

今回の講演は、小学生にはちよつと難しかったかも知れませんが、約1時間熱心に聞いていただきました。

また、この事件をきっかけに導入される予定の取り調べ監督官制度について

おして、事件が権力によってつくりあげられることがこの現代において

「宗教による対立」「人種による対立」「領土の侵略」「軍需産業による

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

「戦争が良いか平和が良いか」と言えば誰でも平和が良いと言いますが、戦争は軍需産業など、戦

一人でも多くの国民に戦争の悲惨さや、平和の尊さを訴えてまいります。

また、この事件をきっかけに導入される予定の取り調べ監督官制度について

「宗教による対立」「人種による対立」「領土の侵略」「軍需産業による

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

太平洋戦争で日本人は300万人の人が犠牲になりましたが、戦後63年が経過した今日もまだ

一人でも多くの国民に戦争の悲惨さや、平和の尊さを訴えてまいります。

また、この事件をきっかけに導入される予定の取り調べ監督官制度について

「宗教による対立」「人種による対立」「領土の侵略」「軍需産業による

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

沖縄戦では日本軍は住民を守らず、そこどころか集団自決を住民に強制

一人でも多くの国民に戦争の悲惨さや、平和の尊さを訴えてまいります。

また、この事件をきっかけに導入される予定の取り調べ監督官制度について

「宗教による対立」「人種による対立」「領土の侵略」「軍需産業による

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること

「戦争を風化させない」「戦争を風化させない」と、世界に誇れる「平和憲法」を堅持すること



展示された遺留品

一人でも多くの国民に戦争の悲惨さや、平和の尊さを訴えてまいります。

遺留品返還状況

平成16年4月～20年8月現在

Table with 4 columns: 遺留品 (Relic), 旧所有者 (Former Owner), 依頼主 (Requester), 返還日 (Return Date). It lists various items like flags, photos, and documents along with their return dates.

われわれ戦争を知らない世代ができることは、遺体収容など未だ終わっていない戦後処理に目を向けることで戦争の悲惨さを次世代に語り継ぎ

平成20年度総会を開催

平成19年度 特定非営利活動に係る 事業会計収支計算書

平成19年8月1日から平成20年7月31日まで

特定非営利活動法人 戦没者を慰霊し平和を守る会

科 目	金 額	額 (単位:円)
(資金収支の部)		
I. 経常収入の部		
1. 会費・入会金収入	774,000	774,000
2. 寄付金収入	2,285,950	2,285,950
経常収入合計		3,059,950
II. 経常支出の部		
1. 事業費	2,736,031	2,736,031
2. 管理費	366,040	366,040
経常支出合計		3,102,071
経常収支差額		▲42,121
III. その他資金収入の部		
その他資金収入合計	0	0
IV. その他資金支出の部		
その他資金支出合計	0	0
当期収支差額		▲42,121
前期繰越収支差額		67,782
次期繰越収支差額		25,661
(正味財産増減の部)		
V. 正味財産増加の部		
1. 資産増加額	0	0
2. 負債減少額	0	0
増加額合計		0
VI. 正味財産減少の部		
1. 資産減少額	0	0
2. 負債増加額	42,121	42,121
減少額合計		42,121
当期正味財産増加額(減少額)		▲42,121
前期繰越正味財産額		72,282
当期正味財産合計		30,161

平成20年8月23日(土)、福岡県久留米市のハイネスホテルにおいて「NPO法人戦没者を慰霊し平和を守る会・平成20年度総会」を開催しました。

当日は、総会員数250名のうち、出席者18名(委任状115名)で事務局長高木一希を議長に選出し、平成19年度の活動報告並びに平成20年度の活動方針等を確認し決定しました。

平成19年度 事業報告

1. 事業の成果

1) 慰霊巡拝活動
平成20年1月、沖縄にて「遺体収容の旅」参加者で慰霊を行いました。平成20年6月、「沖縄慰霊の日」に慰霊式典へ参加しました。

平成20年7月、フィリピン・レイテ島にて「日比合同慰霊式典」を行いました。

2) 遺体収容
本年で4回目となりました。「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」に、全国各地の会員など(45名)が参加しました。

糸満市大度地区2ヶ所と摩文仁地区、合わせて3ヶ所で発掘作業を行い、白骨化した遺体(11体分)と思われると軍服のポタンなどを発見しました。

参加者は、戦争体験者の話を聞き、実際に体験

して、戦後の実態に憤りを感じ、この現実を改めていこうという声がかかれました。

1) 慰霊巡拝活動
平成19年度は、戦時中の遺留品を2名の遺族と関係者に返還しました。DNA鑑定を推進し、戦没者の置かれている悲惨な状況を改善する為、厚生労働省と交渉を行いました。また、遺族のDNAをデータベース化して残していく為に専門機関を訪問しました。

2) 遺体収容
毎年行なっています。日比合同慰霊式典を通じ、フィリピン・レイテ島ピリヤバの皆さんと交流を行いました。

3) 諸外国友好親善
平成20年6月、佐賀県の仁比山小学校で生徒とPTAを対象に家庭教育学習会を開催しました。

4) 平和運動参加
平成19年8月、佐賀市平和展で平和リレー講演を行いました。

平成20年2月、九州労働金庫のNPO活動報告会での平和講演を行いました。

平成20年3月、佐賀市の北川副公民館にて、遺族会の方々に対象に平和講演を行いました。

平成20年4月、久留米市の石橋文化センターにて、「若者と国会議員が語る会」を開催しました。

平成20年4月、みやぎ町の北茂安中学校で、修学旅行の事前学習の一環として講演を行いました。

平成20年6月、久留米市の石橋文化センターにて、冤罪をテーマにした学習会を開催しました。

平成20年6月、佐賀市の仁比山小学校で生徒とPTAを対象に家庭教育学習会として、講演を行いました。

平成20年6月、沖縄慰霊の日に、未だ眠ったままになっている戦没者が遺族の元へ帰れる様、「DNAのデータベース」を政府に要求しようと呼びかけるチラシ配り

2. 事業の実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額
戦没者の慰霊	慰霊巡拝	1月18日～20日 6月21日～23日 7月29日～8月3日	沖縄 フィリピン	10名	戦没者及びその遺族60万人	60
遺体収容とDNA鑑定の推進	「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を開催 当会に依頼があった遺留品を関係者に返還	1月18日～20日 1年間	沖縄県 全国・アメリカ	40名 3名	戦没者及びその遺族60万人	1,710
諸外国友好親善	レイテ島のバリエティ小学校生徒及び、現地人との交流	1年間	フィリピン・レイテ島	4名	レイテ島ピリヤバ住人600人	0
平和運動参加	平和集会を開催 依頼を受けた講演会で平和講演を行なう	4月18日 6月13日 8月5日・2月1日 3月20日・4月24日 6月15日	久留米市 佐賀県久留米市	20名 5名	聴講者及びその家族500人 聴講者及びその家族500人	712
会報及び戦史発行	会報「平和の灯」第10号発行 第11号発行	8月31日 2月29日	事務局	10名	戦没者遺族会等500人	262

平成20年度 新役員

平成20年度の役員を重任及び新任しました。(□は新任)

役名	氏名
理事	永田 勝美
理事	坂木茂太郎
理事	塩川 正隆
理事	川副 正俊
理事	高田 俊秀
理事	高木 一希
理事	川村 博文
理事	桑野智喜人
理事	山本 直樹
理事	矢野 佳運
理事	塩川 聡
理事	谷川 仁
監事	島 靖彦
監事	西土 純一

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者数	支出額
戦没者の慰霊	戦没者の慰霊巡拝及び慰霊碑の維持管理を行う	年2回	フィリピン 沖縄県	各5名	戦没者及びその家族 100万人	200
遺留品の返還	インターネットを通じた依頼や発掘による遺留品の情報を調査し遺族に返還する	常時	全国 アメリカ	3名	240万人	60
遺体収容とDNA鑑定の推進	「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を開催し、戦争を風化させないよう若者に戦争の悲惨さを知ってもらう また一人でも多くの戦没者を家族の元へ返す為、DNA鑑定が行える体制を益々整えるよう政府に要求する 戦没者の置かれている悲惨な状況を改善する為、引き続き「戦没者救済法(仮称)」の制定に向けた運動を、全国のボランティア団体にも呼びかけ、運動を行う	年3回 年5回	フィリピン 沖縄県 佐賀県 全国	50名	戦没者及びその家族 240万人	2,000
諸外国との友好親善	フィリピン・レイテ島の人々へ学用品等の寄贈等を行い、友好親善を図る	年1回	フィリピン レイテ島 ピリヤバ町	3名	フィリピン レイテ島 ピリヤバ町の 住民1万人	50
平和運動への参加	前年度に続き平和講演を行い、平和な世の中を守るため、戦争の悲惨さを語り継ぐ	年2回	全国	20名	全国民 1億2千万人	200
会報及び戦史発行	当会の活動及び計画を、会員全員に報告また、戦争を語り継ぐ手段として、機会があれば配布する「活動の記録II」を発行し、活動を広める	年2回	当事務局	10名	2万人	700

平成20年8月15日日本武道館で行われた全国戦没者追悼式で、河野衆議院議長は、無宗教の施設建設を真剣に考えることを戦没者に誓われました。

これは、小泉政権下、官房長官として無宗教の新たな追悼施設の建設の答申を受けながら放置している福田首相への強いメッセージであり、国民世論が戦没者の置かれていた悲惨な現状を認識し始めたことと表れだと思えます。

沖繩県では県議会が保帰るのが現実のものとなる

革逆転したこともあり、沖繩県議会に実情を訴え、実態調査を約束されました。

これまで、厚生労働省や沖繩県のペースで国民の見えないところで戦後処理が進められ、悲惨な扱いを受けていた戦没者63年にしてようやく日があたり始めたことを表すものです。

沖繩県で、当会が昨年分発掘した遺体から4人のDNAが検出され、これまで、南方方面の戦没者の遺体からは熱と湿度でDNAは出にくいとされてきた問題が、一歩前進し、現在遺族との鑑定中で戦没者が遺族の元へ帰るのが現実のものとなる

当会も今年度で6年目を迎えますが、多くの皆様の活動が実を結び始めたものであり、活動の成果と言えるでしょう。

今年度は、活動の記録II(これまでの活動実績と戦没者の抱えている現状、そして戦没者を遺族の元へ帰すための対策)を発行し、国民の皆様とともに活動を続けたいと思います。

戦後63年、ほとんどの人が教科書でしか戦争を知らない世代。戦争のない平和な世の中が続いてきた証ともいえます。

しかし、戦争で大切な命を犠牲にした人たちがいます。大きな心の傷を抱えている人たちがいます。沖繩県で亡くなった方々のうち、未だに土の中に埋もれたままになっている人がたくさんいることを知っていますか。

その人たちは、まだ終戦を迎えていません。

当会は、63年という年月が風化させようとして「戦争の悲惨さ」を語り継ぎ、戦争で犠牲になり、土の中に残されている方々を一人でも多く家族の元へ帰そうと、今年度5回目になる「沖繩

第5回「沖繩戦戦没者 遺体収容の旅」参加者募集中

戦後63年、ほとんどの人が教科書でしか戦争を知らない世代。戦争のない平和な世の中が続いてきた証ともいえます。

しかし、戦争で大切な命を犠牲にした人たちがいます。大きな心の傷を抱えている人たちがいます。沖繩県で亡くなった方々のうち、未だに土の中に埋もれたままになっている人がたくさんいることを知っていますか。

その人たちは、まだ終戦を迎えていません。

当会は、63年という年月が風化させようとして「戦争の悲惨さ」を語り継ぎ、戦争で犠牲になり、土の中に残されている方々を一人でも多く家族の元へ帰そうと、今年度5回目になる「沖繩

戦没者遺体収容の旅」の開催を始めました。

毎回、1月頃に開催していましたが、今回は、時期を早めて11月に開催することとなりました。

参加を希望される方は、事務局までご連絡下さい。

日時 平成20年11月14日(金)～16日(日)

参加費 福岡空港発

「会員 45,000円
非会員 60,000円
現地合流 10,000円

申込期限 平成20年9月30日(火)
(先着30名で締切り)

連絡先
TEL: 0942-891-5135
Mail: seob@peace@senhoisya.com
事務局 古賀

日程表

1日目	2日目	3日目
8時30分 福岡空港第2ターミナル ANA団体カウンター前集合	11月15日(土) 8時30分 ホテル出発 遺体収容(昼食はお弁当を用意します)	11月16日(日) 8時30分 ホテル出発 慰霊式典(沖繩県平和祈念財団にて)
9時25分 福岡空港発(ANA483便)	17時30分 ホテル到着 自由行動	10時00分 昼食(各自)
10時55分 那覇空港着 昼食(各自)	9時00分 ホテル出発	12時30分 報告会(平和祈念資料館にて、約1時間半)
12時30分 那覇空港到着ロビー集合	10時00分 慰霊式典(沖繩県平和祈念財団にて)	15時00分 那覇空港到着
13時00分 遺体収容説明会(平和祈念資料館にて:約1時間)	12時30分 報告会(平和祈念資料館にて、約1時間半)	16時25分 那覇空港発(ANA490便)
15時00分 現場確認	15時00分 那覇空港到着	18時00分 福岡空港着 解散
17時00分 ホテル到着(チェックイン)	16時25分 那覇空港発(ANA490便)	
18時30分 交流会(ピアドーム)各自集合 那覇市松山1丁目5-1 TEL:098-868-9838	18時00分 福岡空港着 解散	

宿泊ホテル: ホテルルートイン那覇 前島 那覇市前島2-12-5 TEL:098-866-0700